



# 国際的な視野を持つ市民の育成に向けて

山形県東根市総務部交流推進課

## 国際交流の取り組み

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を機にさらなる国際化の進展が期待される状況の中、本市は2017年度を「国際交流元年」と位置づけ、ドイツとの交流を軸に、都市間交流やホストタウン事業など、国際化に向けた取り組みを進めております。

2017年4月の国際交流元年キックオフイベントを皮切りに、7月には市長をはじめとする訪問団が訪独し、インゲルハイム・アム・ライン市（以下、インゲルハイム市）のラルフ・クラウス市長並びにドイツハンドボール連盟副会長を表敬訪問し、今後の都市間交流やハンドボールナショナルチームの招へいについて意見交換を行いました。こうした取り組みが認められ、本市はドイツを相手国、ハンドボールを対象競技として、東京オリ・パラのホストタウンに登録されました。

さらに、8月にドイツから国際交流員（CIR）のベレツノイ・ペロニカさんが着任するとともに、10月1日付けで交流推進課を新設し、国際化に向けた取り組みを推進しています。

今年度は、6月にハンドボールドイツ代表選手2名

を招へいし、中学生と高校生を対象とした「ハンドボールクリニック」を開催しました。また、7月には「市制施行60周年記念式典」に同市長をお招きし、日本文化の体験を通して、市民と交流を深めていただきました。

同じく7月末には、ドイツブンデスリーガに所属するEHV Aue（イーエイチブイ・アウエ）を招へいし、大崎電気、トヨタ自動車東日本、日本体育大学との親善試合を行うなど、東京オリ・パラに向けた機運醸成とハンドボールを通じた市民との交流を図りました。



ドイツナショナルチームメンバーによるハンドボールクリニック



インゲルハイム市への訪問  
(右から2番目が土田正剛市長)



市制施行60周年記念式典でインゲルハイム市長の通訳をするCIRのペロニカさん（写真右）

いよいよ夏です！暑い夏にビールを飲みながらスポーツ観戦なんて、最高の楽しみですね。今月も、ドイツで人気のスポーツについてお話します。皆さんはハンドボールをご存じですか。ハンドボールは、その名のとおおりハンド(=手)を使って行う球技で、ボールをパスでつなぎ、相手のゴールにシュートして、その得点で勝敗を競います。そのダイナミックなシュートシーンやスピーディーな試合展開が魅力で、ドイツではサッカーに次いで人気があります。

ハンドボールの歴史は、19世紀の終わりにドイツやデンマークなどの北ヨーロッパで体系化され、現在の国際ルールの基本ができました。

ドルトムント市に所在するドイツハンドボール連盟(Deutscher Handballbund)は、世界で一番大きなハンドボール協会であり、現在は約4,350ものチームが加盟しています。ドイツのハンドボールリーグは、サッカーと同じで1部から3部までのプロリーグを「Bundesliga(=連邦リーグ)」と呼びます。1部のトップリーグに所属するのは18チーム、次ぐ2部リーグは20チームが所属し、ドイツ全土で争われます。3部リーグはドイツを4つ(北部・東部・南部・西部)に分けて試合が行われています。全部で9部までのリーグがあり、ドイツでいかに人気のスポーツであるかわかりいただけると思います。

市報掲載記事(ドイツの文化や習慣についての紹介)



市内中学校の総合学習の様子



大ケヤキ横綱パレードに参加し、太鼓を叩くベロニカさん

## 国際交流員の活動

ベロニカさんの主な活動として、市報や市のホームページを活用し、情報発信を行っています。また、小中学校における総合学習の講師としてドイツの文化などを児童生徒に紹介するほか、地域の各種団体が実施する国際交流事業への派遣、図書館で本の読み聞かせを行うな

ど、さまざまな世代の方たちと交流を深めています。

さらには、市や地域のイベントにも積極的に参加するとともに、自ら企画した“カフフェクラッチ=お茶飲み話会”を実施するなど、広く市民にドイツ文化に親しんでもらうため、さまざまな活動に取り組んでいます。

## 今後の国際交流の展望

今後、国際化がさらに進展し、文化やスポーツなどの交流によって人やものが国境を越え、新たな発展をもたらすことが期待されます。こうした時代の潮流を的確に捉え、子ども交流やスポーツ交流など、インゲルハイム市との交流を一步一步積み重ね、国際的な視野を持つ市民を育成したいと考えております。

また、ホストタウン事業を積極的に推進することによって、東京オリ・パラに向けた機運を醸成するとともに市民の国際理解を深め、スポーツを通じた国際化を進めていきます。

ドイツとの友好の懸け橋として活躍している国際交流員の活動については、市民との交流事業をさらに活発に展開し、子どもから大人まで幅広い年代の市民に国際感覚を養う機会を提供していきます。

今まさに、遠く1万キロ離れたドイツとの友情が芽生えつつあります。今後、この芽を少しずつ大きく育てていくとともに、豊かな国際感覚を持つ市民を育成し、市民がさらに潤いのある生活と満足を得られるよう国際交流を推進していきます。